



專操權一案ノ意見書

全

2729



114
A4405



專操權ノ一案ニ付意見書

夫レ專操權トハ政府或ハ一人乃至多数ノ人民
ニテ工業商業又ハ其他ノ職業ヲ專行スルノ權
利ヲ有スル特權ヲ云フ
是故、認ベテ專操權ナルモノハ工業商業及ヒ
其他職業ノ自由ト稱スル公權及ヒ道理ト反ス
ルモノニシテ又競争ナル経済ノ主義ト反スル
モノナリ競争ハ百般ノ事物進歩ノ刺衝ナリ
專操權ハ既ニ許多ノ大義ト反スルモノナルガ

大正十一年四月
隈侯爵寄贈

故、重大急要或ハ全ク度外ノ事由ニアラズン
 ハ之レヲ許スヘキモノ、アラズシテ一個人民
 ノタメノミナラズ本案ノ如ク政府ノ利益、ホ
 ラスラ之レヲ許スヘキモノ、アラズ
 今爰ニ佛國ニ於テ存スル所ノ專操權并ニ其之
 レヲ專操スル所以ノ理ヲ示サン佛國ニテノ專
 操權ハ火藥兵器ノ製造、貨幣ノ鑄造、書信ノ遞送
 及ヒ煙草ノ賣捌トス右ノ内煙草ノミハ商業上
 ノ專操權ニシテ他ハ皆智工上ノ專操權ナリ
 火藥及ヒ兵器ノ專操權ハ工業ノ自由ニ對シ公

共安寧ノ緊要ナルニ付二様ノ義アリテ其專操
 ナル所以ノ理ヲ説クテ甚ク容易ナルベシ即チ
 一ハ火藥製造ノ不注意タルヤ其工人ラレテ危
 難ニ罹ラシメ又其近鄰ノ人民ラレテ莫ク驚愕
 スヘキ破裂ノ際會セシムルガ故ニシテ一ハ兵
 仗及ヒ軍用ノ屬スル器具ヲ随意ニ掌握スル
 ラ得ル、於テハ容易ニ國家ノ擾亂ヲ惹キ起ス
 ヲ得ヘキガ為メナリ
 右ニ於テ專操權ノ理由ハ説得テ甚ク穩當ナリ
 又實地上ニ於テハ政府ノ嚴密ナル検査ヲ以テ

民間ノ工業者ニ政府ノタメ兵器ノ注文ヲ受ク
ルヲ許シ以テ專操權ノ嚴ナルヲ調和スル所ヲ
貨幣ノ鑄造ニ至リテハ其印記及ビ稱号ニ於テ
非常ノ精密ト十分ノ着実ヲ要スルモノニシテ
政府其專操權ヲ有スルニ於テ敢ヘテ亦甚シキ
ノ非難ヲ受クル所ナシ
火藥兵器ノ製造及ビ貨幣鑄造ノ二ツニ於テ政
府ノ專操權ハ其目的タル收入ノ利ヲ謀ルガタ
メニアラズシテ以テ二事ニ付人民ノ自由權ヲ奪

フニ比スレバ尚ホ以レヨリ大ヒナルノ弊害ヲ
社會ニ防禦スルニ在リ
書狀遞送ノ專操權ニ至リテハ其理義ヲ説ク
尚ホ容易ナリトス
全國ニ於テ規則正確ナル郵便ノ業ヲ開カシ
ム其最初及ビ爾後多年ノ間入額ヨリ甚々多キ
巨額ノ費用ヲ要スルモノナリ一國ノ政府ニ於
テ斯ル廣大ナル制度ヲ設クルモノハ多年ノ後
或ハ一日政府ニ利スル所アルニ至ルベキカノ
遠謀ヲ以テスルニ過キザルノミ且ツ書狀遞送

ノ專操權ハ其事業ノ永久不変ト一彼普及ナル
トラ一國ノ保證スベキモノニシテ若シ之レヲ
民間ノ事業トナサバ天ノ氣候或ハ其他ノ場合
ニ於テ大ニ事務ノ困難ヲ来スル當リテハ政
府ニ於テ之レヲ為ス如キノ正確ヲ守ラザルベ
ク而シテ一地方トイヘドモ事業ノ行ハレザル
ヲアルベシ

右ノ外尚ホ次ノ專操權ノ理由アリ今之レヲ左
ニ示サン

夫レ日本國ニ於テ郵便ノ事務ハ其歳出ノ豫算

ニ見ヘタルト年已ニ久シ而シテ今日ニ至リテ
ハ其収入ノ利益蓋シ支出ノ金額ニ超過シ郵便
ノ設タル遂ニ歳入ノ一部トナルニ至レリ

佛國煙草ノ專操權ハ人民自由權ノ三害ヲ併有
スルモノニシテ即チ農事工業及ヒ商買三自由
ノ受害ナリ

何ヲカ農事ノ自由ヲ害スルト云フヤ煙草ノ耕
作タル政府ノ允可ヲ懸タルモノニアラザレバ
之レヲ行フヲ得ズ且ツ其耕作タル政府ノ核
査ヲ受ケ其利益ノタメ行フモノナレバナリ

何ヲカニ業ノ自由ヲ害スルト云フヤ煙草ノ製
造即チ之レヲ各種ノ品類ニ改造スルノ事ハ獨
リ政府ニ於テ之レヲ為スガ故ナリ
何ヲカ商買ノ自由ヲ害スルト云フヤ政府其賣
捌人ヲ各地ニ置カル、ガ故ナリ
右ノ三善アリテ煙草專操權ニ共フルヲ得ル所
ノ一理ハ他ニ非ラズ唯其ノ全ク無益ニ屬スル
ノミナラス或ハ以テ人民ノ健康ヲ害スルヲ有
ルヤキ虚奢物ノ消費ニ因リテ頗ル巨額ノ税金
ヲ收入スルヲ得ルノ一點ニ在ルノミ

日本國ニ於テ煙草ノ專操權ヲ行フハ固ヨリ
論外ナリ

日本ニ於テハ既ニ煙草稅ヲ設アレドモ未ダソ
ノ專操權ナシ今人アリ若シ煙草製造并ニ其賣
捌方ノ專操權ニ付余ニ向ヒテ意見ヲ問フニア
ラバ余ハ直チニ之レヲ駁撃センノミ何ントナ
レバ今政府ニ於テ彼令ニ無教ノ官吏ヲ用井以
テ其事ヲ為ストイヘトモ其得ルトコロノ結果
ハ却テ彼ノ微々ナル職人が僅少ノ人負僅少ノ
元金ト其未ダ進歩セサル所ノ製造法トヲ以テ

行フモノ、及ハサルベケレハナリ
既ニ煙草專操權ヲ立ツルトキハ他日酒類醸造
ノ如キモ惟徴稅ニ止マラス其醸造モ亦之レヲ
政府ニ屬スルニ非サレハ條理ニ缺ハガルノ場
合ニ至ラン

茲ニ今設ケントスル所ノ新々ナル一專操權即
チ蚕印紙製造ノ專操權ヲ論ゼン
此事ヤ農業ノ自由權及ビ商業ノ自由權ヲ害ス
ルモノト謂フ可シ

右ハ印刷局ニテ民間ノ工業ト印刷紙ノ製本寫

真等ノ競争ヲ為スガタメ世人ヲシテ政府ヲ賤
シマシムルガ如キノ比ニ非ラス

蚕印紙ノ專操權ハ全ク民間ノ殖産ニ付キテ特
別ナル專操權ナルベシ

今蚕印紙製造專操權ヲ論スル者ノ口實ニ曰ク
養蚕家タルモノ内國ノ需用及ビ外國ノ貿易ニ
必用ナルソ外尚ホ過多ノ蚕印紙ヲ製造シ年ト
シテ巨額ノ損耗ヲ招ガナルトナシ毎年夥シキ
蚕印紙ヲ潰シ燒棄等ノ事アルハ全ク其製造ノ
度ヲ失フガタメニシテ是クノ如キ事ハ現在ナ

ル弊害ノ外遂ニハ其製造家ヲシテ失望セシメ
其奮發心ヲ揉マスノミナラズ外國輸出ヲ目的
トスル蚕印紙ノ製造業ヲシテ消亡セシムル
至ルベシ

然リ而シテ若シ政府一朝蚕印紙ノ製造者トナ
ルトキハ(或ハ政府直接シ之レヲ行ヒ或ハ委負
ヲ以テ之レヲナシ或ハ民間ニ免許ヲ與ヘテ之
レヲナスニモセヨ)外國貿易ニ要用ナルベキ者
ノ外製造スル所ナカルベシ而シテ政府ナルト
キハ自ラ見込ラ立テ、事ヲ為スノ方法ヲ有ス

ルヲ得ベシ是レ民間ニ於テ能ハサル所ノモ
ノナリ且ツ政府ニ於テハ人民ノ如ク巨利ヲ博
スルヲ求メガルベシ人民ハ賣口ヲ欠クノ危
機ヲ冒シ大損モヲ来スアレドモ政府ニ在リ
テハ其價ヲ定ムル亦廉シテ不相當ノ事ナカ
ルベキ故シ買方ニ於テモ亦人民トノ取組シ
狡猾手段ヲ極ムルガ如ク政府ニ向テ其價ノ減
却ヲ謀ラザルベシ

蚕印紙專操ノ新法ニ付キテハ前説ノ外或ハ尚
ホ他ノ理窟アルベシ然レドモ其説ノ如何ニ拘

ハラス余ヲシテ以ノ專操權ハ理アリト信セシ
ムルヲ能ハズ

以ノ專操權ハ殊ニ以テ不可ナルモノナルベシ

右ハ経済ノ三自由(業ノ自由)中最大貴重ナル農

業自由權ヲ害スルモノナルベシ

商買及ビ智巧製作ノ業各皆自由ノ權利ヲ有セ

ザルハナシトイヘドモ其程度ハ之レヲ農業自由

權ニ比スレバ及ハザル所アリ何ントナレハ工

業ハ危険ノ工業アリ又商業ハ政府ノ監護

ヲ要スヘキノ商業アリ然リトイヘドモ農作ノ

一事ニ至リテハ世人ノ之レヲ論スル如ク其業

ハ恰モ是レ國ヲ養フノ乳母ニシテ土地所有權

ニ付最モ以テ公正ナルノ事業ナレバナリ

今一地ノ所有者ト向テ其桑樹建物并ニ蚕印ヲ

獲ルヲ奪フハ道理ヲ以テスルモ權利ヲ以テ

スルモ到底行ヒ難キノ事ナリ

既ニ人氏蚕印ヲ造クルノ權ヲ奪フトキハ又生

糸ヲ作ルノ權ヲ奪フニ至ルベシ而シテ政府ノ

口實ハ生糸ノ持主非常ノ浮利ヲ射ニテ欲シ

テ遂ニ相當ノ代價ヲ以テ其品ヲ賣捌ノ機會ヲ

失フベシト云ハ其理ヲ設クル亦取ヘテ難キ
ニアラザルベシ

夫レ已テ生糸製造ノ權ヲ奪フヤ又米穀ニ及
ホスベシ又以テ大豆麦類ニ及ホスベシ

果シテ此クノ如クナルトキハ國中政府獨リ耕
作者トナリ獨リ製造者トナリ獨リ商買人トナ
リ國ニ以テノ營業者トナシ至ラシ豈ニ不都合
ノ至リナラズヤ

是レ社會黨論ノ誤謬ト禍害ヲ窮極シタルモノ
ナリ

蚕印紙專操論者ハ以テ言フナシ以テ自ラ禦ケヘ
シ曰ク我獨リ蚕印紙ニ止マルノミ豈他ノ耕作
物ニ及ホシ以テノ如キノ甚シキニ至ランヤト固
ヨリ然ラン

而シテ專操論者ハ又言ハント欲ス曰ク日本ノ農
民ハ猶ホ幼稚ノ如シ自ラ其身ヲ管理スルニ適
當セザルモノナリト

然リトイヘドモ日本ノ農民ハ實ニ感賞スベキ
モノアリ上ニ向ツテハ殆ンド壓裂潰碎セシム
ベキノ重稅ヲ忍ビ下ニ向テハ自己ノ露命ヲ繫

キ又以テ全國ノ人民ヲ養フモノナリ
斯クマテ有功ノ農民ナレバ苟クモ農業ノ自由
權ヲ犯害スルノ事ハ是レ不條理ノ事ナリ是レ
恩ミ負キ本ヲ忘レタルノ事ナリ
況ンヤ方今汲々乎トシテ百方農作ヲ勸勵セン
トスルノ日ニ於テ一方ヨリ又之レヲ沮害スル
ノ事ヲナスベカラズ
世人ノ預メ知ランコトヲ欲スル弊害ニ付テハ人
民自ラ之レヲ醫スルノ方法ヲ有スベシ
既ニ本年ノ如キハ蚕印紙ノ製造之レヲ前年ノ

比スレバ甚々少ナキヲ疑ヒナキモノ、如シ故
ニ時季ノ終リヲ待テ事ノ如何ヲ論ズベシ
他日若シ製造家ノ着眼宜シキヲ得タルトキハ
政府固ヨリ喙ヲ容ル、コトヲ要セス若シ又其宜
シキヲ得ザルトキハ製造家自ラ又明年ノ事ヲ
處置スル所アルベシ
蚕印紙ノ價ヲ引上ゲンタメ之レヲ買込ニ其産
出ヲ總括スルノ社モ亦起ルベシ而シテ蚕商ハ
對シテ又自ラ防禦ヲナスコトヲ知ルベシ
是等ノ事豈是レ政府タルモノ、公務ナランヤ

國ノ政治最モ宜シキヲ得テ國民最モ幸福繁榮
ナルモノハ政府ノ干涉最モ大ナキノ國ニ在リ
日本國ニ於テハ政治ノ干渉スル所實ニ繁シ
或ハ云フ其干渉スル所既ニ甚カシト
夫レ政治上ニ於テハ國ノ人民果シテ能ク自由
權ヲ立ツルノ域ニ適當セリヤ又代議政体ヲ以
テ國政ニ參與スルニ適當ナリヤ否ヤヲ論議ス
ルコトヲ得ヘシトイヘトモ經濟上ニ於テハ勸諭
ヲ爲シ及ビ模範ヲ示スノ外、國民政府ニ要スル
所ナシ

政府タルモノハ耕作及ビ製造(葡萄、橄欖、羅紗、紙
類、葡萄酒、肉類、鹽漬)ノ模範ヲ人民ニ與フルヲ得
ルコトアリトイヘドモ人民ノ其利益ニ於テ最モ
所要ナリト信スルモノヲ爲スノ權ヲ奪テ所有
者大受ノ權利ヲ橫竊スルコトヲ要セズ
人民自ラ誤ル所アルトキハ自ラ能ク之ヲ知
ルコトヲ得ベシ
古ノ意義ニ於テ論スベキ所ノモノ尚ホ少ナカ
ラザルベシ
本日ハ偶其暇ナキヲ以テ書ス所推僅カニ其概

略、止マル差シ以書、於テ疑問ヲナシ又ハ所
見ヲ述ブアル者アラバ余ハ之レガ答辭ヲ各マガ
ルベシ

東京 千八百八十年十月八日

エフ、ホアワナード

